

睡眠時無呼吸症候群検査のご案内

- (1) 症状と合併症について
- (2) 検査について
- (3) 治療について
- (4) 簡易検査
- (5) 終夜睡眠ポリグラフィー検査
- (6) 睡眠時無呼吸症候群の診療フロー
- (7) 検査当日のスケジュール




当院では、睡眠時無呼吸症候群の検査（ポリソムノグラフィー）を行っています。夜間のいびきや日中の眠気などで、睡眠時無呼吸症候群が疑われる患者さま、一度調べてみたいという患者さまは呼吸器科へご紹介ください。また、検査に対するご質問などがありましたら、臨床検査科までご連絡ください。

(1) 症状と合併症について

睡眠時無呼吸症候群（SAS）とは眠っている間に呼吸が止まる病気です。無呼吸自体で即、窒息死を起こすことはありません。それよりもむしろ、きちんと睡眠を取れていないことなどにより、体がじわじわと侵され、高血圧症や心疾患など生活習慣病になったり、昼間の眠気により、労働災害や交通事故を起こしたりすることが問題視されている病気です。

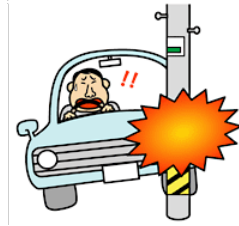
<代表的な症状>こんなことはありませんか？

夜	昼	病気で
いびきをいつもかく 家族から時々息が止まっている といわれる 苦しくて目がさめる 夜間、トイレに何度もおきる 口が渇く 胸焼けがする	いつも眠い、居眠りする だるい、疲れる 仕事に集中できない 	高血圧なのに薬がよく効かない 心臓の病気がある 肥満や糖尿病である

※夜の項目に2つ以上該当し、昼の項目・病気の項目にも該当すれば、SASの疑いがあります。

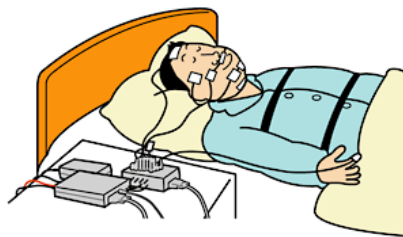
睡眠時無呼吸症候群の方は、健康な方と比較して高血圧を発症する可能性は2倍、狭心症・心筋梗塞は3倍、脳血管障害は4倍、糖尿病は1.5倍という報告があります。その他にも高脂血症・高尿酸血症の合併も多いことが判明しています。米国のデータでは、睡眠1時間あたり20回以上無呼吸が記録された患者様は無治療のまま放置すると、9

年後には、10人のうち4人が心臓病・脳血管障害・交通事故などで亡くなっていたという衝撃的な報告もあります。



(2) 検査について

はじめに、簡易検査を行います。簡易検査は携帯型で、患者さまご自身がお自宅にて行います。入院する必要はありません。簡易検査の結果、睡眠時無呼吸症候群や、その他の睡眠障害が疑われる場合、原因や重症度を調べたり、治療法などを決定するために終夜睡眠ポリグラフィーという検査を実施します。



睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の出来事です。そのため、患者さまには入院していただき、寝ているときにどのような睡眠状態なのか、呼吸の状態はどのようになっているかを検査します。測定には体にセンサーを取り付けますので、少々わずらわしく感じるかもしれませんが、痛みを伴う検査ではありませんのでご安心ください。

(3) 治療について

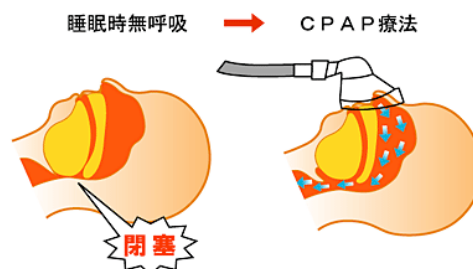
検査後、睡眠時無呼吸症候群と診断された場合は、患者さまにあった治療法を選択いたします。

軽症の方は、生活習慣の見直しにより症状が軽減したり、無くなることもあります。肥満ぎみの方は運動を、アルコールを飲む方は就寝前の飲酒は控えるようにしましょう。また、睡眠薬などを服用している方は、主治医にご相談ください。薬の中にはかえって無呼吸を悪化させるものがあります。

中症～重症の方はCPAP療法が第一選択です。

●CPAP療法

就寝時に患者さまの鼻から空気を送り込み、気道が閉じてしまわないようにする方法です。睡眠時無呼吸症候群の治療法として確立している方法です。



(4) 簡易検査

終夜睡眠ポリソムノグラフィー検査の前にいずれかの検査を行っていただきます。外来での検査が可能で、入院していただく必要はありません。

24時間経皮的酸素飽和度モニター (SpO2モニター)

手指にSpO2モニターを装着していただきます。1日のうちのSpO2の変動を調べます。SASの患者さまでは無呼吸のイベント発生時にSpO2が低下します。

簡易睡眠時無呼吸検査 (☆心電図なし)

手指にSpO2モニター、鼻にフローセンサーを装着していただきます。就寝前に患者さまご自身に装着していただき、SpO2の変動、呼吸の状態を調べます。

簡易睡眠時無呼吸検査 (☆心電図あり)

手指SpO2モニター、フローセンサー、いびき、体動などの睡眠時無呼吸検査のセンサーに加え、ホルター心電図を装着していただきます。睡眠時無呼吸検査と不整脈精査を同時に行うことが可能です。睡眠時無呼吸検査のセンサーは就寝前に患者さまご自身で装着していただきます。

(5) 終夜睡眠ポリグラフィー検査

簡易検査で睡眠時無呼吸・低呼吸症候群が疑われる場合、終夜睡眠ポリグラフィー検査を行います。睡眠の状態を詳しく検査するため、患者さまには入院していただく必要があります。

<検査内容>

睡眠状態の判定 …… 脳波・オトガイ筋筋電図・眼球運動・下肢筋電図

呼吸状態の判定 …… 胸腹部呼吸センサ・フローセンサ・SpO2・いびきセンサ

その他 …… 体位センサ

(6) 睡眠時無呼吸症候群の診療フロー

睡眠時のいびき、無呼吸を訴え来院



呼吸器科にて問診・診察



簡易検査 ※24時間SpO2、簡易睡眠時無呼吸検査



簡易検査にて睡眠時無呼吸症候群が疑われる場合



終夜睡眠ポリグラフィー検査
検査結果の解析



検査結果と今後の治療方針の説明



終夜睡眠ポリグラフィー検査



外来経過観察（月 1 回、予約制）

(6) 検査当日のスケジュール

入院後	検査の説明
午後 7 時～	検査の準備、検査開始
翌午前 7 時	検査の終了

※ 退院時に次回の来院日を予約します。